

本時のねらい

- ・自分自身の成長を振り返り、自分でできるようになったことや役割が増えたことに気づくことができる。
- ・自分の成長を支えてくれた人々の存在に気づくことができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・導入時に出た意見をその場で教員が発表ノートにまとめ、全員に配付することで本時の活動に生かす。
- ・発表ノートにまとめた1回目の意見をコピーし2回目を作成することで、児童の思考がどのように変容したのかを「見える化」し、本時の学習評価につなげる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・スクリーン
- ・Sky Menu Classの発表ノート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○この1年間を振り返り、挑戦したこと、できるようになったことを「勉強」「運動」「生活」「その他」の観点から考える。	・発表ノート上で、児童から出た意見を観点別に色分けしたカードに授業者が入力し視覚化する。また、完成した発表ノートを全児童に配付し、以降の活動につなげる。
展開 (30分)	○めあて①「できるようになったことトップ5を見つけよう。」 ・全員で出した意見の中から、自分の中のトップ5を見つける。 ○ペアになり、理由を説明し合う。 ・友だちがなぜその5つを選んだのか聞き、発表する。 ○選んだ5つを「自分の力」だけでできたのか、「だれかのささえ」があっただけでできたのかに分ける。 ○めあて②「だれかのささえでできるようになったことを見つけよう。」 ・全員で「だれかのささえ」について話し合った後に、再度「自分の力」と「だれかのささえ」に分ける。	・カードを簡単に追加、削除できるので、児童の思考が整理しやすい。 ・思考ツール「Tチャート」を使用し、カードを移動させながら分類する。 ・1回目の「Tチャート」を保存し、それをコピーして2回目の「Tチャート」を改めて作成することで、その変容を「見える化」する。 ・簡単にカードを移動させることができるので、何度も分類し直すことができる。
まとめ (5分)	(ふりかえる) ○本時の学習について、振り返りカードで振り返る。	

1人1台端末を活用した活動の様子



自分の中のトップ5を選んでいる場面



トップ5を選んだ理由を交流している場面



「自分の力」と「だれかのささえ」に分けている場面

児童生徒の反応や変容

考えを2つに分ける際、カードを自由に動かせることが思考の整理に繋がったように思う。また、1回目の発表ノートをコピーして2回目に記入させたことで、児童自身も考えの変化を実感し、振り返ることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・導入で児童の意見を取り入れた発表ノートを使用することで、児童の声をそのまま授業に生かすことができる。
- ・コピー機能を使用すると、「2枚のTチャート」から発表ノートで思考の変容を見取ることができ、評価にも生かすことができる。